

科目名	現代美術論			科目コード	0101				
開講学科	総合教育科目	単位数	4	形態	講義				
教員名	七海 壽								
授業の目的及びテーマ									
<p>現代において「アーティスト」が作品を作るということはどのような事なのか？</p> <p>過去の作品や現代の作品を見て美術史と照らし合わせその変遷、を考察する事により「芸術作品」の定義を探る。</p> <p>その定義が踏まえ自己の作品にどう生かせるのかを考える手段を学ぶ。</p>									
授業概要									
<p>現代美術はある日忽然と現れたのではありません。しかるべき歴史的な背景を持って登場したのです。そして、現代はグローバル（地球規模の）な時代でもあります。アンドレ・マルローが「ルネッサンス以来の西洋美術は世界の一部でしかない」と記述し、「世界美術館」構想を提唱し、今日彼の主張がまさに現実のものとなっています。</p> <p>現代美術はいま生きている美術です。美術館におさまりかえった過去の美術について考察するのではなく、私たちと共に生きているアートについて、一緒に体験し考えていくのです。</p> <p>教科書の図版と解説をゆっくりと対照させ、想像力をかきたてて学習を進めましょう。ノートを一冊用意し、作品についてメモをとる習慣をつけましょう。</p> <p>近くの美術館や画廊で開催されている展覧会のうち、現代的と思われるものを積極的に見に行こう。この科目に関連のある新聞や雑誌の記事を集めスクラップブックを作ろう。</p>									
授業計画									
第 1 回：「美術史」の流れを知る 第 2 回：「芸術」の変化 第 3 回：「創造」とは何かを考える 第 4 回：「アカデミズム」について考える 第 5 回：宗教などの外からの解放について 第 6 回：見せ方の多様化 第 7 回：身体と精神の反応と関連 第 8 回：主観的と客観的な反応視点と視点 第 9 回：作品の背景にある思想 第 10 回：工業や産業の発達と芸術の変化の関係 第 11 回：抽象絵画とは何か 第 12 回：抽象絵画の展開と写実の展開 第 13 回：近代芸術（ポストモダン） 第 14 回：ポップアートの出現 第 15 回：伝統と前衛			第 16 回：アンディ・ウォーホルという存在 第 17 回：ウォーホル作品と社会の関係 第 18 回：複製は「芸術」なのかを考える 第 19 回：社会的性差に関する表現について考える 第 20 回：芸術作品の多様性 第 21 回：メディアとアートの関係 第 22 回：「オブジェ」＝「物」ということ 第 23 回：デュシャンの「泉」について考える 第 24 回：コンセプチャルアート（視聴者を作品に） 第 25 回：モティーフとしての身体 第 26 回：自己の内面と外側 第 27 回：自己と社会の関係と「芸術」への影響 第 28 回：古代～現代まで変わらないもの 第 29 回：すべての「芸術」の共通性 第 30 回：結局「芸術作品」とは何か						
テキスト	アメリア・アレナス 著 福 のり子 訳（淡交社） 『なぜ、これがアートなの？』		参考文献						
評価方法：									
提出課題 4 件を以って評価する									